

仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)の実現が 企業を強くする

時 代とともに、人々の生き方は多様化した。働く女性が増加し、高齢化が進んだことで、多くの方が仕事を抱えながら子育てや親の介護をしている。趣味や勉強の時間を大切にすることも増えている。こうした状況に合わせ、企業も進化しなければ競争力を失うことになりかねない。優秀な人材を確保するためには、異なるライフスタイルの社員一人ひとりが仕事と生活を両立できる環境を整えることが重要だ。仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス=WLB)の実現が、企業の競争力を左右する時代が近づいている。

企業の間でも、ワーク・ライフ・バランス(WLB)という考え方がようやく認知されてきたが、一方で、厳しい経営状況に直面したことで、社員のWLB支援どころではない、といった声も聞かれる。

しかし、業務改革や生産性向上の取り組みこそWLBの本質である。さらに、少子高齢化が急速に進み、優秀な人材の確保が困難になっていく日本の将来を考えても、WLBの推進は中長期的・持続的発展につながる「未来への投資」であり、好不況にかかわ

らず着実に進めていくべきものである。WLBの実現が、企業の競争力を高める結果につながると言っても過言ではない。

具体的には、次のような取り組みが必要となってくる。

休暇の取得促進

休暇の取得促進は、仕事の付加価値を高める結果にもつながる。社員が休日に自己研鑽したり、趣味でリフレッシュしたりして得た経験や知識を仕事に還元することが、活気に満

ち、イノベーションの起こりやすい組織風土をつくり出すことにつながる。

メリハリのある働き方の実現

WLB支援は、単なる時短ではない。業務の見直しを進め、時間当たりの生産性の向上を図り、メリハリのある働き方に転換することが、仕事と生活の調和につながる。

仕事と育児・介護の両立支援

子育てや親の介護が必要な時期など、個人の置かれた状況に応じて多様な柔軟な働き方が選択できるような環境が求められている。多様なライフスタイルを受容する働きやすい環境づくりは、将来を担う人材の確保・育成・定着に不可欠である。

WLBの推進に大きな投資は不要だ。競争力ある企業として成長を続けていくためにも、今こそWLB支援に着手すべきだろう。

テーマ別に見るプロジェクト参画企業10社の取り組み事例

休暇の取得促進

- 株式会社電通 連続休暇制度の改定 他(10/5号)
- 鹿島建設株式会社 現場異動時休暇の取得促進 他(10/12号)

メリハリのある働き方の実現

- 株式会社日立製作所 職場のコミュニケーション力を強化する研修実施 他(10/19号)
- 株式会社大和証券グループ本社 19時前退社の励行 他(10/26号)
- 全日本空輸株式会社 会議改革 他(11/2号)
- キャノン株式会社 ノー残業デーの徹底 他(11/9号)

仕事と育児・介護の両立支援

- 三井化学株式会社 育休制度の拡充 他(11/16号)
- 日産自動車株式会社 ファミリーサポート休暇の導入 他(11/23号)
- 株式会社高島屋 有期雇用社員の育児休業の取得促進 他(11/30号)
- 住友商事株式会社 事業所内保育所の設立 他(12/7号)

※次号からは、厚生労働省の「仕事と生活の調和推進プロジェクト」に参画する企業の取り組みを連載していく予定です。()内は掲載予定の発行号

特別対談 佐藤 博樹氏 × 久保 純子氏

WLB推進で大切なのは、 多様な生き方を認め、受け入れること

佐藤 久保さんは2人のお子さんがいらっしゃるんですね。仕事と子育てを両立させるのは大変ですか。

久保 今は子育てを最優先に考えています。子育ては、「今しかできないこと」ですから。

佐藤 優先順位をつけることは、WLBを考えるうえで大切なことですね。望ましいワーク・ライフ・スタイルは、人によって、また人生の時期によっても違います。今は仕事に集中したい、という人がいてもいい。WLBというのは、単なる子育て支援や休暇の取得促進だけではなく、多様な生き方を認め、受け入れることなのです。

久保さんは、実際に育児と仕事を両

立されるうえで、何が大切だと思われませんか。

久保 周囲のサポートですね。長女を妊娠した時、仕事と両立できるか悩んで上司に相談したのですが、上司は

「この経験は、後々の人生に確実に生かせるから頑張れ」と言ってくれました。この言葉は、大いに励みになりました。今では時間をうまく使えるようになりましたが、それでもやはり夫の支えは欠かせません。



いく。皆がそのように行動してこそ、WLBは実現できるのです。そのためにも、周囲に自分の生活を理解してもらうことが重要です。

久保 コミュニケーションは小さな積み重ねが大切だと思っています。ですから、夫とは些細なことでも日々の出来事を話すよう心がけています。職場でも、身近なことを語り合えば、お互いを理解するきっかけになるのではないのでしょうか。何より、家庭が見える人は、カッコいいですよ。

佐藤 WLBを推進することで、企業は様々なリスクに柔軟に対応できるようになります。社員がお互いにカバーし合えるよう情報を共有することで、不測の事態に備えることができるわけです。生き方が多様化している時代だからこそ、企業がWLBに取り組む必要性は高まっています。



久保 純子氏

フリーアナウンサー。1994年NHKに入局。「プロジェクトX〜挑戦者たち〜」などの人気番組の司会を担当するほか、「紅白歌合戦」の紅組司会者を3年連続務めるなど活躍。2004年よりフリーアナウンサーとなり「ブロードキャスター」(TBS系)などに出演。現在は「ウチくる!?」(CX系)などの番組に出演する傍ら、2009年9月にはユネスコ世界寺子屋運動の広報大使「まなびゲーター」に就任。また、ライフワークである子どもにかかわる仕事として絵本の翻訳や読み聞かせなどでも活躍している。2女の母。



佐藤 博樹氏

東京大学社会科学研究所教授。厚生労働省「仕事と生活の調和推進委員会」座長。同省の労働政策審議会分科会委員等を兼職。夕方6時半以降に帰宅する日数を月10日以下としたり、週末の仕事を引き受けないなど仕事の総量規制を実践。